

個票 4 森林表土を用いた法面緑化

〔森 1(1)④3-3 森 2(2)①7-1 森 3(1)①3-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
	種の多様性への配慮		野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	豊かな土壌の保全・回復・創出		
	多様な緑地などの保全・創出		
配慮事例	樹林の林床植生の多様化による表土流亡の防止		
	植物などの郷土種が含まれている表土の活用		
内容	<p>●森林表土を用いた法面緑化</p> <p>【解説】</p> <p>森林表土には、埋土種子や土壌動物など多様な動植物の供給源となることから、法面緑化にあたっては改変される樹林の表土を活用することが望まれます。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●表土吹き付け工法</p> <p>①改変される場所の表土をあらかじめ採取しておきます。</p> <p>②盛土法面に植生ネットを敷設した後、2mm のふるいで処理した表土を吹き付け機を用いて吹き付けます。</p> <p>③表土に生育基盤材（有機堆肥、保水剤、有機肥料、接合剤等）、ピートモス、糸状菌の一種であるアーバスキュラー菌根菌（AM菌）などを配合します。</p> <p>【事例 1】</p> <p>【場所】 兵庫県宍粟市</p> <p>【環境配慮の内容と方法、工法】 森林表土を用いた埋土種子による法面緑化試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林表土は、凹型斜面から採取した方が、凸型斜面より埋土種子が形成されやすく有利である。 ・表土吹付工法は、従来工法と比較して、初期緑化が遅れるものの、地域固有の植物種による多様性緑化が図れることが明らかになった。 ・初期緑化の遅れについては、切土のり面の場合、表土割合を増やすか、追加播種を行うことで、初期緑化の速度を高められることがわかった。 ・単に表土を配合するのみでなく、埋土種子の発芽と生育を補助する添加剤（AM菌等）の有無が早期緑化に寄与できると考えられる。 		
	出典：2、3		

